

納税と生活保護

学校法人暁学園暁中学校

3年 中村 永

私の両親は生活保護受給者が暮らす施設を運営しています。私もその場所で、幼い頃から毎年夏休みにはボランティア活動をしていました。ボランティアから帰宅した夜の食卓では、両親とよく「働くこと」や「納税すること」について話し合います。

税金は、私たち国民の暮らしに関する様々なところで使われています。ボランティア活動で私が出会った人たちもその給付を受けていました。病気や障害があり働けない人、犯罪被害に遭い避難している人、刑務所を出所して社会復帰を目指している途中の人…働けなくなった事情は様々でした。

資本主義経済を基盤としている日本では、国家が国民の一生を通じてその生活を保障していると謳っています。生活保護という、様々な理由によって経済的に困難となった人に最低限度の生活を保障する公的制度があることを、私はボランティア活動を通して知りました。

しかし世の中にはその一方で、働いて納税する人がいる。「人は生活のために働いているのに、得た賃金を働いていない人の生活のために納めるなんて。」私は、視点を変えれば不公平なのではないかと両親に問いかけたことがあります。「それは、バランスを保つことが難しい側面で、とても複雑な課題だ。」と両親から返答がありました。私は、もっとその問題について理解を深めたいと考え、調べたところ『富の再分配』という言葉に辿り着きました。

『富の再分配』とは、経済的な富や所得を社会全体で公平に再分配することを言います。日本では、社会的な平等や公平を実現することを基本的目標として、経済力のある人にはより大きな負担を、経済力が同等の人に等しい負担を求め、税や社会保険などで所得を再分配する仕組みで富の偏りを調整する機能があることを理解しました。

個人の責任のみが重要視される国もある中で、日本では税に関しても平等と公平を実現することを主眼としていると知り、私は驚きと安心感を覚えました。そして、自身の質問が、いかに社会を知らず日本を理解していない稚拙な質問であったかと恥ずかしく思いました。

税が基本的目標としているのは、社会的な平等と公平です。私が思うその意味は、「人の人生は時に転落もあり、その環境下で人生が大きく左右されないように国によって守られている。」つまり、国民の暮らしを守るために税金は存在しており、誰も知らないところで私たちは守られている。このような制度があるからこそ、私達は安心して働くことができ、人生を楽しむこともできます。

将来の社会の一員として、私もその責任を果たしたいと思っています。また、税の役割を次の世代に正しく伝えていくことも責任の一つだと考えています。